

## 《みなみかわちガイドネットワーク》について

「みなみかわちガイドネットワーク」という組織が昨秋に誕生したことは、会報3号等でご存知だと思いますが、丸一年を経過し、今秋からは大和川を越えて連携が広がっていますので、改めてこの組織の結成目的や、当面の動きについてご紹介致します。現在、我々のようなガイドを中心とするボランティアグループは、各市町に有り、それぞれの結成・経過によって、活動の仕方や範囲が異なっています。

しかし、目的は自分らが住む街の歴史や良さを、住民の方や市外の方々にもっと良く知って貰い、活性化を図るという点で共通しています。一方、行政の方には「華やいで大阪・南河内観光キャンペーン協議会」という連携組織が既にあり、合同企画の事業が展開されています。更に、我々とは最も縁の深い「近つ飛鳥博物館」では、地元との連携を深めていくことが必要だ、という方針があります。

こうした背景のなかで、各グループが目指す「街の活性化」を、河内全体のものに広げ、しかも観光面だけでなく地場産業や商店にも目を向けて、河内のブランド力を高めようというのが、この組織を結成した大きな狙いです。従って、各市町の行政機関とはお互いにカバーと連携を密にし、近つ飛鳥博物館を含めたトライアングルで、情報交換や事業の協力を積極的に進めていきたいと考えています。

既に今年度は、合同企画の展示会やラリーウォークを実行していますが、北隣の八尾にも加盟の動きがあり、来年度は共通テーマを「河内の古刹（寺院）」と決め、イベントは博物館と共催で、またウォーキングは隣接する市町のグループが合同で、春と秋に開催するよう目下検討中です。

今後ともこの組織の目的を理解し、活動への積極的な協力をお願い致します。

なお、現在の参加団体は次のとおり

- ・かわちながの観光ボランティアガイド倶楽部
- ・富田林寺内町ボランティアガイドの会
- ・太子街人の会
- ・フィールドミュージアムトーク史遊会
- ・柏原の郷土史を探る会
- ・(財)松原市文化情報振興事業団
- ・藤井寺市観光ボランティアの会 (中西 明)



「10月3日 秋の高野街道を歩く」



「10月17日 古市宿から富田林」

「東高野街道・巡礼街道～古市宿から富田林へ」のウォークに参加して

羽曳野市役所に集合、参加者は46名で内藤井寺市観光ボランティアは9名。松永白洲氏が富田林市の美具久留御魂（みぐるみたま）神社に書碑を奉獻されているので、その書碑を見るのが楽しみのウォークでした。当日神社は秋祭で混雑していたため、鳥居前での説明で終わりましたが、白洲氏の書碑は本殿前にあり直ぐにわかりました。当神社は崇神朝の創建と伝えられている古い神社で、「みぐる」とは「海の水が川に上がり綺麗になる・・・」と言う意味があり、崇神天皇の時にこの周りに5色の大蛇が暴れているのを見て、大国主命を祀りなさいと命じた事からこの神社が造られたそうです。下水分（しものすいぶん）神社とも言い、昔から水関係の神社として祀られていたようです。東正面からは二上山が望めます。やや速足で雨の中のウォークでしたが、庭鳥塚古墳や新堂廃寺など初めての場所も案内して頂き、見聞が広がった気がしました。（Y・K）

## 恒例の「近鉄ウォーク」10月31日（土）

### 世界遺産をめざして！《古市古墳群めぐりPAPTI》

秋晴れのさわやかな朝、道明寺天満宮よりスタートしました。9時前に早くも参加者の姿が見え、見る見るうちに人数が増え受付は大忙し。次から次と人の波に思わず嬉しい悲鳴・・・9時半過ぎる頃には第1番目が出発。1グループが20人から40人になり、最終の7番目は予定外の副会長が急遽ガイドをすることになり、10時半頃やっと受付が終了する。全体で200名の参加者であった。遠い所から来られた人、駅を間違えた人などいろいろあったがあつという間に時間が過ぎてしまった。誘導ガイド、定点ガイド、案内役、受付など皆さん忙しいへん疲れたと思いますが、皆さんの笑顔がとともうれしい1日になりました。

(O・M)



## 道明寺天満宮 八朔大祭

9月1日、道明寺天満宮で八朔大祭がおこなわれた。

八朔とは、稲に実がなる時期の旧暦8月1日に行われる節で、五穀豊穡を願う行事などが行なわれます。まず、本殿と土師社で祭典が行なわれた後、子供相撲が奉納されました。相撲の奉納は道真公の祖先が相撲の祖といわれる、野見宿禰（のみのすくね）に由来したもので、江戸時代から給金相撲として続いてきましたが、戦後は子供の健やかな成長を願って行なわれ、今回は31回目となります。今年は戦前に使用された道明寺天満宮の大的ぼりが立てられ、元気な少年たちの歓声の中、白熱した取り組みに土俵ぎわから盛んに拍手がおくられました。（鈴木）



### 紙芝居 ふじいでらの民話

昨年の福祉まつりに初めて参加しました。

今年は葛井寺の藤まつり、しゅらまつり、そして地区の催しなどの機会に恵まれ、活動の場も少しずつ広がってきております。さて、「うっかりかみなり」「やっつけられたたかたか坊主」に続いて第3作目は允恭陵に伝わる民話「大蛇と木こり」です。 こうご期待を！！ 芳尾



うっかりかみなり



大蛇と木こり



### 藤井寺歳時記

### 注連縄づくり



毎年、天満宮の本殿横の庭で注連縄が権禰宜や祭明会の人たちで作られます。千早村の契約農家から餅米の茎の青い新藁がトラックで運ばれてから始まります。藁埃のなか新藁の香りに包まれて作業は進みます。特に大注連縄は大木を支えにして5、6人で纏られる様は一見の価値があります。（I・K）